

2016年
222号
 11月23日(水)



全日本年金者組合越谷支部
 〒343-0845
 埼玉県越谷市南越谷2-13-49
 (越労連内)
 TEL・FAX 048-989-2472
 E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

山形風「イモ煮」で誕生会



そろそろ秋風が冷たくなる晩秋の頃、10月31日(月)に「いも煮会&誕生会」が市民会館向かいのウッドデッキに組合員39人が集まり開催されました。会場になった元荒川沿いのデッキには吉田支部長が書かれた年金者組合の横断幕が風になびきました。当日の午前9時には市民会館の調理室に今回の幹事らが集合して調理に取り掛かります。今回の料理は吉田支部長から「宮城風のいも煮」を作るように指示がありました。隣の県の山形風「いも煮」を作ることにしました。

(宮城風いも煮はトン汁と間違えるため)そもそも「いも煮会」は、東北地方で秋の収穫を祝う地元の行事です、その収穫のお祝いの主役はお米ではなく、この時期にふんだんに収穫される新鮮な「里芋」です。

調理は宮城出身の伊藤書記次長の指示の元、調理に駆け付けた組合員一同が牛

肉と里芋などの食材に、味付けは醤油とその他調味料などと格闘し、おいしい山形風いも煮が出来上がりました。

12時から全員で「いも煮会&誕生会」で乾杯です。来賓として、越谷市議3人に駆けつけていただき挨拶いただきました。市議の方は平日のため昼食時間に公務を抜け出さず姿で駆け付けたようです。39名参加者は「山形風いも煮」に舌鼓を打ち、組合員からいただいた缶ビールや日本酒焼酎を存分にいただきました。

いも煮会では、参加した組合員各自の近況などを報告していただき、2か月ぶりの誕生会を楽しみました。宴が盛り上がったころ吉田(正)さんの歌唱指導のもと唱歌や青春歌謡のさわやかな歌声が元荒川の川面に流れました。

今回の誕生会でお祝いされた人は次の方々です。



- (写真右より)
- ・森山勝司様
 - ・阿部美芳様
 - ・大喜博子様
 - ・赤松雅昌様

方々からいただきました。差し入れは次の称略) (順不同、敬)

- 遊馬雅之・小暮雅朗・高木常雄・吉田健
- 治・石山博・根岸正治・森山久子
- 野菜やお菓子、サラダなど。
- 川原利雪・飯田裕子・三浦ヒメ・大野幸
- 男・鈴木とし江・飛山幸夫・澤田光司
- カンパ
- 宇佐美忠利・新井啓史・中尾明則

(伊藤剛 書記次長)

点 睛

安心して暮らせる国民合意を「年金カット法」は許さない!

テレビでは連日、米大統領に当選したトランプ氏の動向などが大きく報道されていますが、「年金改革関連法案」については、ほとんど報道されていません。関連法案の内、年金受給に必要な保険料納付期間を25年から10年に短縮する法案は年金者組合の要望でもあり、全会派一致で成立しました。問題は、「年金改革関連法案」が、物価または労働者の賃金のいずれか低い方に合わせて年金の支給額をきめる新しいルールを導入しようとしていることです。

これまで年金支給額は、物価に合わせて決められてきました。物価が上がれば年金も上がる、物価が下がれば年金も下げるといふ考えです。ただし物価が上がっても、賃金が下がった場合は、変更しませんでしたが、今回の改定は物価が上がっても労働者の賃金が下がれば、年金額も賃金に合わせて引き下げられるようにしようとしています(注・年金カット法案と呼称)。

厚生労働省は、過去10年の労働者の賃金動向で年金の支給額を試算し、10月17日に公表しました。2016年度の年金受給額は、今より3%減るといふ試算結果です。民進党は「3%ではなく5%も下がる」と主張しています。厚生年金の人の場合、夫婦で平均して約7千円減ります(「朝日新聞」10月18日)。

この年金の抑制・引き下げルールは「年金制度の維持・存続」「現役世代の過重負担解消」を理由に提案されました。年金者組合は反対の取り組みをしています(2面)。

社会保障給付費は今後も増え続けます。2014年の給付費総額は115兆円、内年金は56兆円で約半分を占めます。1990年の約2・3倍です。みんなが安心して暮らせる社会の実現に向けて、税金の集め方、使い方をみんなで話し合い、国民の合意をつくり、行動する時期が来ていると思います。

年金者組合の出番です。(吉田正美)

次回の宣伝活動 12月21日(水曜日) 12時~13時 南越谷駅南口